

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です ) グループホーム さいら

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	地域理念として『地域の方々と共存する』を職員全員で検討仕合い掲げました。この理念が職員全員に浸透し、具体的に取り組んでいけるよう日々意識して考察仕合い努力していきます。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		管理者は、日々の業務の中でも全職員と理念の共有を行い継続して取り組む姿勢を崩さず努力していきます。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	御家族の方々へ、地域の事や、地域で催している外部の行事に出掛けた事など、御報告し、さらに、理念を大切にしたい内容も、きちんと説明や報告をしていける様に努めます。
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		施設回りの草むしりを入居者の方と行っている際、隣の方が声を掛けて下さったり、お子さんと一緒に手伝って下さる事もありました。利用者の方も草のむしり方を教えたり、終えてからお茶を一緒に飲んだりと楽しまれていました。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	近場で行うお祭りや行事にもっと積極的に参加していきたい。また、地域内の道路清掃やゴミ拾い等に、職員は利用者の方々と一緒に、職員だけでも参加していける様、努めます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内放送等で、行方不明者が出た場合など、その日の勤務者や勤務後の職員で、施設前の通りを見回り、情報提供出来るような事柄はないか気に掛けるようにしています。	○	地元で介護に困っている方にアドバイスや介護の仕方を伝える介護教室が出来ないかと日々検討しています。地域の方々と一緒にお茶を飲んだり、気軽に出入りして頂きながら安心して相談して頂けるような環境作りに努めていきます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価については、自施設のみならず、他施設の評価をプリントアウトして、職員に回覧し自施設の改善に活かしています。また、自己評価に関しては、前回の外部評価時のアドバイスを参考にさせて頂き、全職員で分担し検討仕合い、取り組んで来ています。	○	職員会議以外でも、日々、気付きの中で項目に合わせた内容を確認しあい、自己評価並び外部評価の実施に取り組む努力をしています。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動内容の報告は欠かさずに行っている。また、参加者から、施設は孤立しがちである事を気に掛けて下さる方や、地域活動に職員が参加する事で、福祉の話をする機会がもてるのではと提案して下さる方もおられました。全職員に会議内容を話す事で、地域の方々に対する認識に変化がは見られてきています。	○	運営推進会議の参加者の方々で、地域の事や、班長会議の話など、施設や利用者の方々と世間話をして頂き、活気ある会議に繋がり、運営推進会議を地域の方々が集まる一つの機会として、考えて頂ける様になってきています。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、写真付きの詳細な報告書と事業所便りを提出しています。また、入退居や事故時には、こまめに報告し、市町村からの委託事業には会社をあげて取り組みをさせて頂いています。	○	事業所の特色や立地を市町村に知って貰った上で、市町村に地域住民に介護や認知症を知って貰う勉強会や施設見学会を企画して貰える様に今後もしていきます。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在は、学ぶ機会や活用する事が出来ていません。	○	定期的に行っているスタッフ会議の議題に取り上げたり、研修に参加したりと学ぶ機会を設ける様に努めていきます。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修に職員を出させたり、事業所内で虐待を生み出さないよう、介護ストレスや人間関係を常に把握・調整に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結・解除時には運営規定や重要事項説明書に基づいて、御家族の納得が得られるよう、十分な説明を行うよう努めています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会にくる御家族を通して把握した利用者の苦情や不満は管理者が職員に伝え、随時、改善に向けた取り組みを行っています。また、職員が利用者から不満を聞いた時には、管理者に報告及び記録を行い、職員間で共有し、対応しています。	○ 運営推進会議にて、利用者からの意見や不満等の聞かれた内容を、報告したり、町内の広報などを観たいという意見に対して、協力して下さっています。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	御家族面会時には、日々の生活や様子について職員の方から細かに報告するよう指導しています。介護計画書の更新の際は、管理者と家族とが直接面談し、説明と理解を得ています。また、利用者の状態によっては、管理者からも報告させて頂き、電話連絡等で、こまめな報告に努めています。	○ 御家族の面会時以外でも、随時、利用者からの必要に応じた事柄を連絡をさせて頂いたり、施設からの近況も伝えていきます。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には御家族の代表の方が毎回出席して下さっています。また、苦情・要望解決適正化委員会要領を作成し、御家族への周知を図ったり、ホームの玄関に意見投書用の箱を設けたりしています。	○ 御家族等が、気軽に意見や苦情を言って頂ける様な環境を設定に努めています。また、直接ではなく、間接的に聞かれる意見もある為、その意見を職員に指導し、改善や参考にさせて頂いています。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの提案や意見は管理者に直接伝えて貰ったり、スタッフ会議への議題にしたりしています。また、会社のマネージャーや管理者による職員個人面談を時折実施しており、意見の吸い上げを行っています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	イベントや受診などの状況に対し、柔軟に勤務変更を行い、対応に努めています。また、各職員と相談しながら、勤務調整も行っています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職の際は、うやむやにせず、挨拶を全員に行っています。また、管理者や以前からいる職員が新しい職員と、各利用者の方々に挨拶と説明をし、利用者との関係を作れる様に業務やコミュニケーションのフォロー等を他の職員で行っています。	○ 異動も含めての新規職員は、事前に馴染みの関係を作れる様、お茶を飲み遊びに来て頂いたりしながら、配慮しています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<b>○職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加したり、社内では、各段階の職員を分けて、その段階に見合った研修を定期的に行っています。また、事業所内では新しい職員へ、各勤務時間毎に先輩職員を付け、業務内容や各利用者の特性等を教えています。	○	職員間での連携を図る目的で、役割分担を行っている。清掃や買い物等の分担に2人ずつ組んで行っています。また、連携を図る上で、共通意識をもって利用者に関われる様に努力しています。
20	<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交換研修を行ったり、イベントに参加させて頂いたりしています。交換研修では、1日過ごさせて頂く中で、同業者の方の動きや、声掛け等、自施設とはまた違った面を学ぶ事が出来ています。	○	交換研修やイベント等に出来る限り、全職員が順番で参加すると、視野の拡大や知識や情報交換などに繋がる為、参加出来る様な配慮をしています。
21	<b>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間だけでなく、気軽に管理者へも疑問や悩みを話しせる関係作りに努めています。また、気分転換の一助として、時々、食事に出掛けたり、ストレスの軽減に繋がる様な、介護技術の勉強会を行っています。		
22	<b>○向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の個性に応じた課題の提供や、利用者の誕生日会や夏祭りなどの行事を職員が考案し、実施しています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所初期の段階で職員の方からコミュニケーションを図る努力をし、気付いた事や御本人からの訴えを記録や申し送り等で職員間で共有する様に努めています。早期に、御本人の状態や人柄などを把握する様に指導しています。		
24	<b>○初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者から、御家族の不明な点から不安な点の相談により、電話対応等も含めて丁寧な対応に努めています。また、職員間でも、御家族が面会に来た時には、御本人を交え、会話をしたり、その場で受けた質問には答えられる様に努めています。	○	利用者の全てを受け入れつつ、利用者御家族の信頼関係を損なわない様に、配慮しながら取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族の心身状態や経済状態などを勘案し、当事業所以外のサービスが適していると判断された場合は、他の事業所を紹介する等の手助けを行っています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初期は御本人と他の利用者間、職員間との関係構築に努め、御本人の信頼と安心感を得られている中で、ニーズを探る様にしています。また、御家族の方々からは、入所以前の様子などの情報を頂き、関わりや環境作りの参考にさせて頂いています。	○	利用予定時には、お茶に来て頂いたり、職員との談話を楽しんで頂いたりしていく中で、御本人の意志で、馴染んで頂ける様、配慮しながら取り組んでいます。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人一人の利用者の方々の意向に沿った、寄り添う介護を基本とし、職員は日々の業務の中で意識し、取り組んでいます。	○	時間が経つにつれて、仕事の仕方が業務的になりがちとな為、その都度はもちろん、会議や職員と話す機会に、利用者本位が大切である事を指導していきたい。自然に発せられた欲求や感情を大事にする為、業務の見直しを常に行う努力をしています。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	事業所側で、全てをこなし、御家族の介入が無いのを良しとするのではなく、御家族にも本人の状態を知って頂き、必要な時には協力して頂ける関係作りを心がけています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所後も御家族との良好な関係が継続していける様に、御本人の様子を掲載した事業所便りを毎月御家族に送付したり、面会時にも御家族にゆっくり過ごして頂けるよう配慮しています。	○	御本人の健康である時も体調不良時も変わりなく、御家族との関わりが取れる様に配慮する努力をしています。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の面会時には丁寧に対応し、ゆっくり過ごして頂けるよう配慮しています。手紙のやりとりでも職員が手伝い、返事を返せるよう支援しています。	○	今よりも、気軽にホームへ足を運んで頂けるよう努めます。また、慰問や行事等にも参加して頂ける様に取り組んでいきます。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人一人の性格や傾向、また人間関係を把握し、それに合わせたレクリエーションや家事作業などを行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も相談などは管理者の方で随時受付、御家族や御本人が遊びに顔を出したり出来る関係性を保っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話、行動から、それぞれの思いや希望を把握する様に努めています。また、相手を受容する事により、信頼関係を得て、一人一人を理解していく努力をしています。	○	利用者の方々との、馴染みの関係を作る為に、コミュニケーション技法等を職員が日々勉強し、身に付ける努力をしています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員と御家族との信頼関係が築ける様、配慮し、御本人から聞いた昔話の確認や、入居前までの情報を取得する。教えて頂いた、情報は記録や申し送りに残し、職員間で共有していく様に努めます。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人をしっかりと観察し、状態の変化などを記録に残し、状態を把握しています。また、定期的なスタッフ会議にて情報・意見交換を行っています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	主治医や週一回訪れる看護師とも意見交換を行い、担当職員が他の職員からの意見や状況をとりまとめ、介護計画を作る様に努めている。また、御家族の方とも状態や対応方法の報告や、現状についての話し合いを行う様に努めています。	○	御本人の意向を重視した介護計画を目指し、関係機関との連携も行いながら、作成に努めています。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の生活を必要に応じて随時、見直しを行うとともに、御家族と面談の上、承認を得ています。	○	日々の生活の中で、変化に応じて観察し、必要に応じての介護計画の見直しを行える様、努力しています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の気づきは、口頭の申し送りの他に個別に記録に残したり、担当職員とのミニカンファレンスやスタッフ会議の中での検討を行っています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	御家族や御本人に選択肢を多く提供出来るような環境整備に配慮しています。	○	要望に応じての環境設定の提供がいつでも出来る様、努力しています。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	人手が必要な時には、地元のシルバー人材センターを活用したり、地元の小・中学生や地域の方の慰問を受け入れたりしています。	○	ボランティアを積極的に受け入れ、外部の空気を取り入れ、事業所の活性化に繋げていきます。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	御家族や御本人が他のサービスを利用したい以降があれば、管理者の方で相談にのり、協力出来る部分は支援する様にしています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地元住民の施設利用希望等を包括支援センターからの情報提供を受け、施設利用に役立てています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による月一回の往診による診断の他、利用者の健康状況に変化があった際は、必要に応じて、御本人や御家族に受診の承諾をお願いしたり、受診前後の、状況や対応方法について報告しています。	○	医療支援を行う中で、御本人や御家族の希望が最大限、叶うよう、努めています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症、精神疾患に精通する医師と相談・協力して利用者の診断・治療に役立てています。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を月一回の来所と24時間連絡が取れる状態で配置しており、健康管理や対応についての相談をしています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	御家族の意向を中心に、医療機関と連絡を密にし、御本人の状態の可能な受け入れ機関を常に検討しています。	○	随時、入院医療機関に足を運び、退院に向けての受け入れの準備を整えていく努力していきます。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	御本人や御家族の望む終末期を主治医や看護師と連携し、確認すると共に、日々の生活の充実を図る為の対応方法などを、必要に応じて話し合っています。	○	介護上の統一したケアを職員全員で検討しあいながら、取り組んでいます。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期に向けての方針が決まった際は、御家族に対しての有事における同意書をとる様にしています。また、必要な介護用品の購入を御家族と検討したり、特変時における医療機関との連携を取り決める等して体制を整備するようにしています。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所の際は、御家族に御本人の馴染みのある品物を持ってきて下さる様、働きかけたり、退所の際は詳細な情報提供書を作成するように努めています。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入職時に、守秘義務に関する覚書を書いて貰い、入職後も、不適切な言動については指導しています。また、利用者本人に対しての自尊心を傷つけない声掛けや対応を行う様に努めています。	○ 記銘や声掛け、態度等、適切に行っていますが、その方の意向を十分に配慮して対応していける様に今後も努力していきます。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	御本人からの話を傾聴し、『待つ』介護を心がけ、御本人の決定や意志を出来るだけ尊重する様な環境作りを努めています。	○ 利用者の『出来る事、出来ない事』や現状の能力の見極めを出来る様に努めていきます。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務等の決め事は出来る限り少なくし、柔軟な対応が出来る様にしていきます。また、行動する時には意志の確認をしたり、その方の生活リズムを把握し、居心地のいい生活が出来るように心がけています。	○ 職員側の都合が優先的にならないように、利用者本位の介護が出来る様な、指導及び資料による勉強会などを行っていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	数人の方は行きつけの理美容を利用しているが、それ以外の方は訪問理美容を定期的に行っています。また、御本人の希望に合わせて入浴を行ったり、鏡を見て顔にクリームや整髪をする等、自己決定を尊重しつつ支援しています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が好むものや、季節感のある食事作りを心がけています。また、得意な料理の時には、調理を一緒に行ったり、盛りつけや片づけなどに参加して頂いています。	○ 食材を刻んだり、混ぜ合わせたりしながら、会話を楽しみ、食事への興味や食欲を増す工夫を行っています。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	御本人の望む嗜好品は家族と相談し、出来るだけ希望に沿う形で購入したり、用意して頂いたりしています。また、食事に対しても、一人一人、好む味の味の違いに合わせて、対応する様にしています。	○ お茶の時に茶菓子を何か一種類で、全員同じにせず、選んで頂いたり、数種類を提供したりと、ちょっとした楽しみを増やしていきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意を訴えない方に対して、安易にオムツを使用せず、排泄の兆候やリズムを観察し、出来る限りトイレ誘導での排泄が出来る様に努めています。また、排泄の失敗があった時には、その時の声掛けの工夫や、それを活かした方法を考えながら行っています。	○	その日の状態や状況においても変化する事である為、職員間での申し送りや共有を行っていきます。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間や曜日は決めずに、御本人の希望した時間に入浴を行っている。また、その人の入浴動作の可動域を把握し、一部介助及び全介助傾向にて御本人のペースで入浴出来る様に配慮しています。	○	入浴時は、全身の観察が出来る場でもある為、羞恥心に配慮しながら、身体状況の把握をもしながら、安全に行える様に、常に気を付けて支援しています。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	御本人の疲労感や生活リズムの把握に努め、自然な休息・入眠が出来る様支援しています。日により、夜間、不眠になる方もいるが、安易にい睡眠導入剤などに頼らず、生活環境や生活習慣の改善により、安眠出来る様に努めています。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	画一的な集団処遇ではなく、利用者の持つ個性や役割を把握し、それらが活かされる生活環境の整備や選択肢の提供を行っています。また、利用者一人一人の心身の把握を行い、出来る事や好きな事を活かした役割を持って頂く様に支援しています。	○	利用者に役割を持ってもらう事の重要性を職員がもつと理解を深められる様に努めていきます。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の能力がある方には、その残存能力を活かしていただける様に尊重し、身の回りの品物を自己決定にて買える様に支援しています。その為、御家族への金銭に関する理解と、支出の把握はきちんと行う様に努めます。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	状態や天気などにより、外へ出られない時もあるが、基本的には本人が希望した時に、散歩や除草作業、水やり、玄関先での外気浴等の、戸外活動を行っています。車椅子の方や歩行不安定な方にも声を掛けたり、出たい時にはいつでも出られる様に努めています。	○	常に御本人の意向を尊重した外出支援を行えるよう、努力してまいります。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	御家族の協力もあり、一緒に外出し、食事や買い物をしたり、他の利用者と少人数で出来るだけ希望の場所に浴う様に、外出しています。また、同じ系列会社の事業所へ出掛け、ふれあえる時間を提供しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年始に友人から届く年賀状には職員が手伝って返事を出したり、御本人から希望があれば、電話を行える様、支援しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御家族や知人が訪れた時には、本人の居室や皆がいる食堂等、意向を伺い、過ごして頂いています。一緒にお茶の飲むだけでなく、共に食事を食べて頂いたり、居心地よく過ごして頂く為の配慮に留意しています。	○	行事や慰問の時など、声を掛けさせて頂き、参加して頂いたり、お茶会などを行えるようにします。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	車椅子からの立ち上がりによる、転倒防止の為に、見守りと声掛けによる対応を行っています。昼夜共に臥床している時には、こまめな巡視と鈴を鳴らしたり、鳴るような工夫を行い、対応しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯の為、玄関及び各居室の窓等の鍵は閉めさせて頂いているが、日中は暗くなるまで、どんな状況でも開錠しています。スタッフで見守りや所在確認、普段の利用者の行動の把握、見守り対応出来ない部分は開閉チャイムを設置したり鈴をつけたりして段階的な対応を行っています。	○	開錠を継続する為に、所在の確認や状態の把握等の指導を徹底して行っています。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に利用者の所在と状態の把握に努めるようにしています。特に日中は施錠していない事もあり、見守りと様子観察の重要性を指導している。	○	プライバシーに配慮した見守りを徹底し、利用者の自己回避を常に考え、行っています。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品でも、それぞれの利用者の管理能力と状態に応じて危険予測を行い、職員の関わりの見守りの範囲で対応可能であれば特に規制はしていません。	○	職員間で分担しながら、利用者が所持している物品の把握及び管理を行っています。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハットを導入し、危険と思われるポイントについてはその都度、資料を用意し、回覧する様にしています。重要な点については、スタッフ会議で取り上げ、研修にスタッフを派遣したりしています。	○	事故が起きた時には、他人事ではなく、その場に居なかった職員にも責任感を持って取り組んでいます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	特変時に備え、独自に心肺蘇生法の講習を行ったり、緊急対応マニュアルを作成したりしています。	○	緊急対応訓練を実施したりして、有事での冷静な判断力を養っています。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に二回、避難訓練を行い、有事の避難経路や対応について、周知を促している。また、事業所における緊急連絡網を作成し、素早い対応が出来る体制作りを行っています。	○	他県や他の事業所でおきた災害事故について、話し合いを行い、今後の対策に活かせる様に努力しています。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	持病や心身の状況により、起こりうる事態とその対応については、こまめに御家族に報告し、理解して頂いています。その上で、制限の少ない生活環境を検討しています。	○	面会時など、特に注意している点や対応方法などを職員から説明し、報告に努めています。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常のわずかな変化にも素早く気付ける様に見守りと様子観察を行っています。また、早期に情報を確認出来る様、記録に残すだけでなく、口頭での申し送りをし、早期対応と共に必要に応じて医療との情報の共有を図り、健康管理を行っています。	○	日常生活の中で、その人らしい生活の継続が滞りなく行われる様に常に細やかな観察を行っています。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各薬の効能や用法・用量については管理者や看護師より正しい認識・方法を指導すると共に、職員自身も処方箋を確認し、理解する努力をしています。また、服薬による状態の変化の確認を行い、記録や申し送りにて伝えています。	○	入退所時は、確実にその方の服薬管理情報を交換し、身体の安全と共に生活が滞りなく継続出来る様、対応しています。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘傾向に至ると、直ぐに薬に頼るのではなく、食生活の見直しや散歩、水分補給、入浴中の腹部マッサージなどで予防、改善する様に努めています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯の方は外して頂き、夜間は薬での消毒を行ったり、出来るところまでは行って頂き、出来ない部分は援助させて頂くなど、一人一人に合わせた口腔ケアを朝昼晩行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は各利用者に応じた食事形態、量を提供し、視覚的にも食欲をそそる様な盛りつけを行っています。また、飽きない様に、季節に応じた飲み物を数種類、準備し、飲みたい時に飲んで頂ける様に個別に対応しています。	○	食事量の少ない方には、三食に限らず、数を増やして対応する等の配慮した摂取量の確保を行っています。水分摂取については、その方の意向と共に随時、提供出来る様に工夫しながら対応しています。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い・うがいを徹底し、便や吐物の片づけは速やかに行い、トイレ・居室、ホーム内を常に清潔に保てる様に努めています。また、来客者にも手洗い、うがいや状況に応じてマスクの着用への理解を促しています。	○	会議や資料の回覧にて、感染予防についての勉強を行っているが、外部研修の参加や看護師による指導なども考えていきます。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は冷蔵、冷凍、常温と食材にあった管理をし、生ではなく、一度火を通して提供しています。また、食器やふきん、まな板など、熱湯消毒やアルコール、日光消毒にて、殺菌し、常に清潔な状態にしています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	暑い日には玄関を網戸にして開放しており、玄関横の花壇には草花を植えたり、プランターを配したりして入りやすい雰囲気を作っています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルや玄関には季節の花や観葉植物を飾ったり、季節に応じた写真を飾ったりしています。また、家具の雰囲気や色の調和などに気を遣い、心穏やかな生活空間を心がけている。浴室には、風景写真を飾っています。	○	フロアーにソファ、玄関に椅子、園庭にデッキチェア・濡れ縁等を設置し、その方のくつろげる場所の確保をしたり、気の合った方々が和めるような環境支援を行っています。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にも広がりを持たせ、静かに過ごしたい人や読書をした人など、それぞれが自分の居場所を見つけ過ごせる様にソファや椅子を配置しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や寝具、仏壇等、御本人の使い慣れた品々や思い出のあるものを用意して頂いています。	○	一人一人の馴染みある使い慣れたものを出来るだけ多く、利用出来るよう、御家族に働きかけ、その方の安心の場所の確保をしています。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中、空気の入換えはこまめに行い、冷暖房の使用よりは衣類の着脱による温度調整を心がけています。また、汚物の臭い等には、芳香剤の利用者、喚起を行う事で対応しています。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部の床はフラットで要所に手摺りが配してあります。各所に椅子などの休める場所を設け、自力での移動の助けとしています。また、死角の少ない建物の為、声掛けによる抑制等もせずに、極力、利用者のペースで生活出来る様に配慮しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	レクリエーション等で考える力を活かしたり、家事全般を行って頂ける様に、支援しています。また、残存能力の低下を予防出来る様に、活動的に過ごして頂ける様な工夫を考えています。	○	一人一人のその人らしさを職員は捉えて、活かせる場面を段取りし、支援していきます。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関周りにプランターをおいたり、花壇を設けて利用者と一緒に草花を育てたり、玄関先にテーブルとベンチを置き、お茶の飲んだり、食事をしたり出来る様にしています。また、裏庭に畑を作り、利用者と野菜を育てています。	○	毎年、種が再芽し、自然に草花が観られています。また、畑には施設から出る生ゴミを肥料とし、利用者と共に茄子・きゅうり・枝豆、大根、トウモロコシ等の収穫を楽しんでいます。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・小動物とのふれあいを通して、利用者の方々の気持ちが和み、生活の向上となる様な環境を提供しています。
- ・自然豊かな環境の中で、収穫を目指した畑作りを楽しみ、四季折々の季節感ある作物を植えています。